

調査5 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

- 政府・政策による改善。(製造業)
- 円安で海外からの仕入れコストが大幅に上昇した。(製造業)
- 今年度は中国へ流れた仕事もどりつつあり受注が増えた。(製造業)
- 国内の生産力が低下している。(製造業)
- 消費税増税の前に一時的に業績は上がっているものの先行きが不透明。(製造業)
- 増税後の仕事減少が気になる。(建設業)
- メガソーラの受注増。(建設業)
- 政治が安定してきているため社会全体が前向きに考えられるようになったのではないかと。(建設業)
- 増税前の駆け込み需要以上に増税後の冷え込みに耐えられるかが問題。(建設業)
- アベノミクス効果で需要増大、オリンピック誘致で拍車がかかり人員不足が深刻。(建設業)
- 人口の減少と供給の過剰。(不動産業)
- 入居対象者が年々減少傾向にある。(不動産業)
- 写真のデジタル化によりお客様の減少。会社関係の写真がまったく無くなった。(サービス業)
- 景気は回復しつつあると思うが、それにともなって人材不足を危惧している。人件費が高騰するのではないかと。(サービス業)
- 訪日外国人の増加。消費の冷え込み、食材高騰。(サービス業)
- 取引先の景気悪化により収入が減った。(サービス業)
- 総理の強い発信力、実行力。(サービス業)
- 技術者、技能者の不足、消費税増税による仕入値段の上昇。(サービス業)
- 固定客が主なので景気による変動はそれほど無い。(サービス業)
- 新規取得案件が少なく、他社の値引きによる弊社製品の割高感が増している。(卸売業)
- 消費税増税による駆け込み需要。(卸売業)
- 消費税増税前に仕入上昇のため、利益が圧迫。増税後の景気減速が懸念。(飲食業)
- 景気上向きの実感はなく、消費税増税後に不安が強い。(飲食業)
- 原材料の高騰。(飲食業)

- 地域の商業施設の減少。(飲食業)
- 消費税増税で売上が落ち込むのではないかと不安。景気が良くなっている企業もあるが、中小企業はまだ良くなっていない。(飲食業)
- たばこ購入者の減少。児童生徒数の減少。(小売業)
- 競合店の増加。(小売業)
- 景況感を背景に店舗賃借料が高くなってきている。景気がよくても食品の消費量は大きく変わることはない。(小売業)
- 高齢化・過疎化が年々強くなっている。活性には全体での若返りが必要。(小売業)
- 駆込み需要はすでに出てきている。今後の自動車関連の税金の方向性により3月までの駆込みのレベルがどうなるか、4月以降の反動がどうなのか、大きく変わるものと思われる。(小売業)
- 駆込み需要は顕在化しており、年度末にかけて更に需要が高まる可能性がある。また、所得・雇用環境の改善等、景気の後押し材料となるプラス要因に期待する。しかし、4月以降の需要反動減が心配である。(小売業)
- 消費者が安い方へ流れている。(小売業)
- 給与所得者の可処分所得の減少。貧富の差の拡大。最低賃金をあげるべき。(小売業)
- 中心市街地の地盤沈下。人口減少、高齢化。(小売業)
- 改善しているが中小企業までに影響するには至っていない。改善するのは3～5年後になると思う。(運輸業)